

[研究名]

腸管切除が必要な鼠径部ヘルニア嵌頓の予測因子の検討

[当研究責任医師]

三豊総合病院 外科 宇高徹総

[当研究実施医師]

三豊総合病院 外科 宇高徹総

[研究の目的]

腸管切除が必要と判断される鼠径部ヘルニア嵌頓の術前予測因子を後方視的に検討した。

[研究期間]

2010年1月から2019年12月までの10年間

[研究の対象・方法]

2010年1月から2019年12月までの10年間に、当科で鼠径部ヘルニア嵌頓と診断され緊急手術を受けた中で、腹部単純CTが施行され、嵌頓腸管のCT値が測定可能であった83例を対象とした。83例中腸管切除群13例(以下、切除群)と腸管非切除群(以下、非切除群)に分類した。なお、腸管切除の是非の診断は術中所見で、明らかな腸管壊死、または穿孔を認めたもののみ腸管切除の適応とした。

これら2群において、年齢、性別、ヘルニア分類、発症から手術までの時間、術前体温、術前白血球数(以下、WBC)、術前CRP、術前アルブミン(以下、Alb)、術前乳酸脱水素酵素(以下、LDH)、術前クレアチントンフォスフォキナーゼ(以下、CPK)、腹部単純CT値について検討し腸管切除の必要性に関する予測因子の検討を行った。CT値の具体的な測定方法は、腹部単純CTで撮影された嵌頓腸管の底部のCT値を3か所測定(可能な限り、水平断、冠状断、矢状断の多面的画像から抽出して、平均値を出した。平均値に有意差を認めた場合には、感度および特異度でcut off値を算出する方法で、receiver operator characteristics curve(受任者動作特性:以下ROC)曲線を用いてcut off値を追加で分析検討した。

[個人情報 病歴、既往歴の保護]

診療情報を利用する際には、個人情報との照らし合わせが必要になることがあります。ただし、個人情報は匿名化(誰のものであるか特定できないようにする)して取り扱われますので、個人情報が外部に漏れることはできません。

[患者さんから得た情報の保存・保管について]

患者さんから得た情報は本研究以外には一切用いません。研究終了後5年間厳重に保存し、保存期間が過ぎたら、匿名化した状態で破棄します。

[この臨床研究の成果を公表する際における、あなたの個人情報の取り扱いについて]

この臨床研究の成果を、学会などでの発表や医学誌への投稿などを通じて公表することができます。そのような場合には、あなたを含めこの臨床研究に参加いただいた患者さんの

個人が特定される情報は含まれておりませんので、あなた個人が特定されることは一切ありません。

[費用の負担]

通常の保険診療の範囲内で実施いたします。本研究に関する患者さんの費用負担は一切ありません。

[健康被害が発生した場合の補償について]

過去の診療情報を用いた研究ですので、患者さんご自身に健康被害は生じません。

[利益相反]

利害の衝突によって研究の透明性や信頼性が損なわれるような状況は生じません。

[自由意思による参加、拒否および撤回]

研究への情報提供は患者さんの自由意思によりますが、原則として、不同意の意思表示がない場合には同意があったとみなし、情報等を研究に使用させていただきます。不同意や同意撤回の場合には、いつでも研究責任医師に申し出てください。情報は速やかに破棄いたします。ただし、同意を撤回したときすでに研究成果が論文などで公表されていた場合や、完全に匿名化され個人が特定できない場合などには、破棄できないこともあります。

なお、不同意の場合であっても、治療に一切不利益を受けることはありません。

[本研究に関する問い合わせ先]

本研究に関し、研究の方法に関する資料の閲覧、疑問、苦情などある際には、下記までご連絡ください。

〒769-1695 観音寺市豊浜町姫浜 708

三豊総合病院 外科 宇高徹総

電話 0875-52-3366 (代表)